

# 한통련 뉴스레터

제94호

発行:在日韓国民主統一連合 (韓統連)

〒110-0016 東京都台東区台東4丁目31-7-302 電話/FAX 03-4362-5284  
メール [chuo@korea-htr.org](mailto:chuo@korea-htr.org) ホームページ <https://chuo.korea-htr.org/>

ニュースレター配信をご希望の方はchuo@korea-htr.orgまでご連絡ください。(メールにお名前をご記入の上、件名に「韓統連ニュースレター配信希望」とお書きください)

## 정세 情勢

### ●高揚する尹政権退陣闘争…院内外を貫く反尹戦線の構築が進展…2次、3次総決起へと継続



1次総決起に結集し尹政権退陣を要求する参加者

#### 尹大統領「国民向け談話」発表

尹錫悦 (ユン・ソンニョル) 大統領は11月7日、記者会見を開き「国民向け談話」を発表、記者の質問に答えた。

金建希 (キム・ゴニ) 夫人を巡る疑惑などによる国政の混乱について「全てが私の不注意であり、不徳の致すところ」と述べ、「国民の皆さんに心からおわび申し上げます」と謝罪した。野党が夫人を巡る疑惑を特別検察官に捜査させる法案の可決を目指していることについては、「司法の作用ではなく、政治扇動」と述べ、改めて拒否する考えを示した。

政治ブローカーとされるミョン・テギョン氏との公認取り引き疑惑については「(大統領当選を) 祝賀するとの電話にご苦勞さまと応じた記憶がある(程度)」と否認した。

また、弾劾要求などを意識したかのように、「以後も、皆様に不便と心配をかける

ことのないよう最善を尽くす」とし、「2027年5月9日、任期を終える日まで全力で仕事する」と述べ、任期終了まで大統領職を続ける考えを示した。

支持率の低下については、「野球はスコアボードを見てするものではなく、ボールを見て打つものだ」とたとえ、「支持率を上げるために策を考えるつもりもなく、体質にも合わない」と切り捨てた。

尹大統領の談話と会見に対し、「共に民主党」の李在明 (イ・ジェミョン) 代表は「国民の同意を得るのは難しい」と批判。祖国革新党のチョ・グク代表は「大統領の座にこれ以上いる資格はなく、引きおろさなければならない」と主張。進歩党のキム・ジェヨン代表は「民意を集め政権を一刻も早く退陣させなければならない」と強調した。

#### 「1次退陣総決起」などに20万人結集

尹錫悦政権退陣運動本部は11月9日、ソウル崇礼門前で10万人が結集する中、「全国労働者大会・1次退陣総決起」を開催。一帯の車道・歩道はもちろん、ソウル広場近くまで参加者で埋め尽くした。参加者は「これ以上、我慢できない」と、尹政権の退陣と退陣後の社会大転換を声を揃えて求めた。

警察は2万人を投入し、事前集会の段階から激しい妨害を加えた。そのために総決起への合流が遅れ、集会も短縮せざるを得



警察による暴力団圧

なかった。民主労総によれば、妨害に抗議する中で、労組員9人が連行され14人が負傷した。

各界からの発言が続く中、民主労総のヤン・ギョンス委員長は「暴走を止めない尹政権を追い出さなければならない」「政権側にこの国の主人公が誰なのかはっきりと示そう」と訴えた。

参加者は「すべての現場、街頭の各所で尹錫悦退陣国民投票をさらに力強く展開し、怒りの民意を集めて広げよう」「11月20日の2次総決起、12月7日の3次総決起にはさらに多くの市民と共にさらに大きな退陣の広場を開こう」と決議した。

同日午後、都心では尹政権退陣を求める集会が続いた。総決起終了後は同所でキャンドル行動が「114次キャンドル大行進」を展開し、尹大統領の弾劾を求めた。その後は共に民主党も同所で「金建希・尹錫悦 国政ろう断糾弾・特検要求 2次国民行動の日」集会を開催。民主党は20万人が集まったと伝えた。

同時刻には尹錫悦政権退陣運動本部と全国民衆行動が「国政ろう断 尹錫悦OUT」市民キャンドル大行進を展開。「金建希を特検しろ 国政ろう断を糾弾する」「尹錫悦は退陣しろ 公安弾圧を中止しろ」とスローガンを叫びながら、光化門からソウル広場を経て政府ソウル庁舎まで行進し、沿道の市民も呼応した。

一方、ソウル警察庁は民主労総の集会を不法集会と規定し厳重対応を予告。民主労総は声明で「衝突を誘導する警察の乱入は、公安政局を造成し政権危機を免れようとするあがきだ」とし、「民主労総は暴力

で国民の声を抑える尹政権を必ず引きおろす」と警告した。民主労総は同日夜、組合員を連行したソウル南大門警察庁前で抗議集会を開いた。警察の激しい弾圧に野党からも抗議の声があがった。

### 「尹錫悦弾劾国会議員連帯」42議員で発足

9月1日に結成された尹錫悦弾劾準備議員連帯が2カ月間の活動を経て、11月13日に国会議員会館で尹錫悦弾劾国会議員連帯として発足した。構成議員は12人から42人となった。

発足式では共に民主党のパク・スヒョン議員と祖国革新党のファン・ウナ議員を共同代表に、進歩党のユン・ジョンオ議員と共に民主党のキム・ジュニョク議員を幹事に選出。ユン議員は「民主勢力が一つになる動きに合わせて国会も力を得ている」と展望した。

弾劾議員連帯には民主党28人、祖国革新党9人、進歩党3人、基本所得党1人、社会民主党1人が参与した。

### 尹錫悦政権退陣運動本部に16団体が合流

尹錫悦政権退陣運動本部は11月15日、ソウルの民主労総会議室で記者会見を開催し、全国非常時局会議などの市民社会団体、カトリック正義具現司祭団などの宗教団体、韓国民芸総などの文化団体、16団体が新たに参与することになったとし、「さらに大きく、さらに広く、さらに強く」退陣本部を拡大、強化したと発表。これで退陣本部は7地域・44団体（13日時点、「進歩党」含む）に16団体を加え、67地域・団体の陣営となった。

参加者は記者会見文で「すでに国民は尹政権を見捨てた」「国民的抵抗が本格化している」「尹政権には退陣しか答えはない」と主張。退陣本部は3次総決起を「退陣のための汎国民抗争の日にする」と強調した。

### 「尹錫悦を拒否する市民行進」盛大に実施

全国民衆行動や参与連帯など広範な市民社会団体で構成する「拒否権を拒否する全国非常行動」は11月16日、ソウル市内

で「金建希特検受容、国政ろう断糾弾！尹錫悦を拒否する市民行進」を実施。光化門での集会後、沿道の市民の呼応も得ながら尹退陣の声を力強く上げ行進を展開した。9日に続くこの日の行進には5野党（共に民主党、祖国革新党、進歩党、基本所得党、社会民主党）も共に参加し、李在明代表を始め各党代表、各界からの発言が続いた。

また、市民行進に先立ち野党はそれぞれ大会を開催し、共に民主党は同所で「金建希・尹錫悦 国政ろう断糾弾・特検要求3次国民行動の日」を実施した。同党は、李代表が公職選挙法違反容疑により1審で有罪判決を宣告されたことに対し、判決を糾弾し「尹錫悦検察独裁政権に抗し闘う」と明らかにしていた。

### 反尹国民戦線で退陣闘争を前進させよう

尹大統領の談話と会見は予想通り、何の変化も反省もなく、謝罪もポーズに過ぎず、完全な「開き直り」に終始した。自身と金夫人に関連する疑惑は否認し、金夫人に対する特検法は拒否し、逆に野党の政治扇動だと反発する始末。支持率低下に示された民心離反は意に介さず、弾劾・退陣の声も無視し、任期終了まで大統領職を続け

ると言明した。尹大統領には退陣しかないことがより一層明らかになった。

院内では弾劾を求める議員連帯が議員42人で正式発足し、院外では退陣運動本部に16団体が合流。退陣国民投票も約30万人に達し、さらに勢いを増している。

9日に続いて16日には野党も参加する幅広い連帯で特検・弾劾・退陣要求の反尹・市民行進が展開された。特に、尹政権による李代表への司法弾圧に直面する共に民主党は場外闘争に積極的に乗り出した。韓統連は10日に全国代表者会議を開催し、「尹錫悦退陣」の声を海外からあげた。

院内外を貫く幅広い反尹国民戦線が確実に構築されつつあり、退陣闘争は日ごとに高揚している。一方、警察は政権の意を受けて退陣闘争に暴力弾圧を加え、鎮静化もしくは事件化しようとは必死だ。しかし、退陣要求の民意は暴力に屈することはない。闘いは2次、3次の総決起へと続く。広範な市民社会団体と野党が一体となって弾圧をはねのけながら、退陣闘争を大きく前進させよう。

## ●情勢短信

### 「韓米日事務局」設立、「フリーダム・エッジ」実施…実動する韓米日軍事同盟



「フリーダム・エッジ」を視察し会見する  
エマニュエル駐日米大使

アジア太平洋経済協力会議（APEC、ペルー・リマ）首脳会議への参加を契機に、尹錫悦（ユン・ソンニョル）大統領とバイデン米大統領、石破茂首相が11月15日（現地時間）、韓米日首脳会談を開催し、3カ国の安全保障や経済分野での協力強化に向けた調整を担う「韓米日調整事務局」を設立することで一致した。会談の冒頭、尹大統領は「発足する事務局はより大きな協力を導く堅固な基盤となる」と述べた。自主統一平和連帯は14日、ソウル光化門で「陣営対決の構造化、主権と平和をき損す

る韓米日事務局の設置に反対する」記者会見を開催し、事務局の設置は事実上の韓米日軍事同盟の完成を意味し、その執行機能を強化するためだと批判した。一方、韓米日が海や空、サイバーなど複数領域で行う共同訓練「フリーダム・エッジ」が13～15日、済州島の南方で実施された。同訓練は今年6月に初開催され今回が2回目。

## 国家保安法廃止国民行動、月例行動を実施…公安弾圧を糾弾

国家保安法廃止国民行動は11月14日、ソウル光化門のトンファ免税店前で先月に続いて「平和と人権のために、決別する決心 国家保安法廃止 月例行動」を実施。尹錫悦（ユン・ソンニョル）政権による公安弾圧を糾弾し国家保安法の廃止を訴えた。月例行動では、この間の公安弾圧は、尹錫悦退陣運動の中心である韓国進歩連帯や民主労総を国家保安法で弾圧し、政権危機を免れようとする政権側の旧時代的な発想であり行為だと糾弾の声が上がった。韓国進歩連帯のハン・チュンモク常任共同代表は「書店で販売される書籍を利敵表現物として家宅捜索した」とし、「当局の許可を受けたり関連法ですでに処罰された件を国家保安法で再び処罰するとは言語道断だ」と批判。さらに「南北海外間の政策協議を『国家転覆行為』と規定した」と不当性を指摘した。月例行動は毎月第2木曜日に実施される。

## 활동보고 活動報告

### ●韓統連が「戦争挑発・介入を中止しろ！ 尹錫悦退陣 全国代表者会議」を開催



尹錫悦政権退陣を要求するプラカード・アピール

在日韓国民民主統一連合（韓統連）は11月10日、名古屋市内で「戦争挑発・介入を中止しろ！ 尹錫悦（ユン・ソンニョル）退陣 韓統連全国代表者会議」を開催。会場では、尹錫悦政権退陣運動本部が展開している国民投票に連帯し、退陣の賛否を問うアンケート・パネルを展示。退陣要求の意見を集めた。

宋世一（ソン・セイル）委員長が主催者あいさつ。「昨日の退陣総決起では10万人が結集し、尹錫悦退陣の声をあげた。野党やキャンドル行動、市民社会のあらゆる場所においても退陣運動が高揚している。窮地に陥った尹政権は、常套手段である公安弾圧により退陣運動の中心部隊に攻撃を加え、朝鮮のロシア『派兵』を既成事実化しながら、ウクライナに対して段階的に殺

傷兵器を支援すると公言している」と指摘。「ウクライナ戦争に韓国が介入すれば戦争は拡大し、南北間の緊張は高まるばかりだ。尹政権のこのような戦争挑発・介入をわたしたちは断固として止めなくてはならない。いまこそ、韓国民衆と連帯し尹政権を引きずり降ろそう」と語った。

会員団体と地方本部から意見表明。在日韓国青年同盟中央本部の韓成祐（ハン・ソウ）委員長は「尹政権の不正腐敗の中で最も深刻なのは公認介入疑惑だ。保守政権による相次ぐ国政ろう断に国民の怒りは頂点に達している」と語り、「政権危機を乗り切るために尹政権は進歩団体・進歩メディアに対して弾圧を加えている。弾圧の口実として韓統連・韓青との通信も取り上げており、怒りを禁じ得ない」と強調。

「尹政権を退陣させる闘いを在日同胞青年として力強く展開していく」と語った。

韓統連兵庫本部の高弘（コ・ホン）事務局長は「尹錫悦はこの間、国民ではなく家族のために政治を行い、米国と日本に追従し戦争危機を高め、国家保安法と拒否権を乱用することで韓国の民主主義を破壊した。このような人物に大統領の資格はない」と糾弾。「悪政の中で苦しむのはいつも民衆だ。わたしたち韓統連は、民衆の怒りを海外同胞として一層共感し、連帯しなければならない。尹錫悦を退陣させるま

で、韓国の民衆とともに闘っていく」と語った。

趙基峰（チョ・キボン）副委員長が決議文を朗読。△特検法で尹錫悦・金建希（キム・ゴニ）疑惑を明らかにしろ！△尹錫悦は戦争を挑発し介入するな！△退陣闘争に連帯し退陣を実現しよう！との決議事項が提案され、満場一致で採択された。

金昌五（キム・チャンオ）副委員長が閉会あいさつ。「尹政権の退陣はもはや秒読み段階に入った。国民の要求によって金建希特検法が採択されれば、尹政権は雪崩を打ったように瓦解していくだろう。わたしたちは、退陣のその時まで闘い抜くとともに、退陣した後の韓国社会のあり方を展望していかなくてはならない」「文在寅政権時、国民の大多数が支持したにも関わらず、米国の圧力に屈し、南北合意をひとつも実現できなかった。尹政権退陣後わたし達が最も優先して取り組むべき課題は、米国の圧力に屈しない、自主的民主政府を樹

立することだ。そして、迫りくる戦争危機を乗り越えなければならない。団結した力で尹政権を退陣させ、平和と繁栄の時代を築いていこう」と語った。

集会後、参加者は「尹錫悦政権退陣！」と書かれたプラカードを手に尹政権退陣をアピールした。



退陣の賛否を問うアンケート・パネル

## 決議文

尹錫悦大統領と尹政権に対する国民の怒りは、いまや天を衝く勢いであり、爆発寸前と言える。

尹政権は4月の総選挙で国民から厳しい審判を受けたにもかかわらず、尹大統領は無能と無責任、独断と専横、民生の破たん、民主主義の否定、戦争挑発・介入と平和の破壊、対米従属・対日屈辱外交、対北対決と、その資質と姿勢、政策に何の反省も変化もないまま、憲政秩序を破壊し国政をろう断するという許しがたい暴政・悪政・失政を平然と継続している。

尹大統領と金建希夫人は「疑惑の宝庫」だ。尹大統領による海兵隊員殉職事件への捜査外圧疑惑、金建希夫人のドイツモーターズ株価操作疑惑、高級バッグ授受疑惑に加えて、国会議員補欠選挙の候補者公認過程への介入疑惑まで明らかになった。だが、二人は黙秘と否認を続け、尹大統領は真相解明のための特別検察法案を拒否権でことごとく葬り去り、検察は二人を徹底擁護している。

当然のごとく、世論調査では全地域、全世代で、さらには保守層も含めて支持を失い、支持率はついに10%台に落ち込み、政権運営に赤信号が点滅している。

こうした中、尹錫悦退陣運動本部は、全国で10万人が結集した尹政権退陣時局大会（9月27、28日）を皮切りに、10月8日からは退陣の賛否を問う国民投票も全国的に展開し、国民の退陣意思を集めながら、11月9日に退陣総決起を開催。ソウルに結集した10万人の参加者は尹政権に退陣要求を突きつけた。総決起は継続して20日、12月7日にも実施される。

また、院内では弾劾を党方針として決定した進歩党・祖国革新党と野党議員が「尹政

権弾劾準備議員連帯」を構成し、弾劾準備に拍車をかけている。

第一野党「共に民主党」が11月2日にソウル駅一帯で開催した「金建希-尹錫悦 国政ろう断糾弾 特検要求 国民行動の日」汎国民大会には30万人が結集し、尹政権出帆後では最大規模の反尹行動となった。同党は「金建希特検法通過などのための一千万人署名運動」を通じた汎国民運動を開始した。

院内外で反尹闘争がこれまでにないほどに高揚している。こうした闘争が一つに束ねられながら反尹汎国民戦線が構築され、国民的退陣闘争の全国的な高揚が、尹政権を追い詰め退陣を実現する展望を必ず切り開くだろう。

一方、尹政権は政権危機を脱出するために、常套手段の公安弾圧に乗り出した。特に、弾劾キャンドル集会を開催するキャンドル行動と、退陣運動の中心である韓国進歩連帯を標的にし、弾劾・退陣運動を封じようと躍起になっている。

弾劾・退陣要求が噴出する中で、尹大統領は朝鮮のロシア「派兵」を既成事実化しながら、段階に応じて殺傷兵器をウクライナに供給するとし、NATOの先兵と化して戦争を挑発し介入しようとしている。だが、韓国政府が関与すれば、戦争拡大を招き軍事緊張を煽るだけなのは明らかである。

民意を踏みにじり国政をろう断し、批判勢力を弾圧し、さらには戦争を挑発し介入しようとする尹大統領に、国民が期待するものは退陣以外に何もない。

朴槿恵政権を弾劾し退陣に追い込んだキャンドルの炎はいままた燃え上がり始めた。国民は再び立ち上がり尹大統領に鉄槌を下そうと決意している。わたしたちも海外の地から退陣闘争に固く連帯し必ず退陣を実現しよう。以下、決議する。

1. 特検法で尹錫悦・金建希疑惑を明らかにしろ！
1. 尹錫悦は戦争を挑発し介入するな！
1. 退陣闘争に連帯し退陣を実現しよう！

2024年11月10日

戦争挑発・介入を中止しろ！ 尹錫悦退陣 韓統連全国代表者会議 参加者一同

代表者会議の記事が韓国のインターネットメディア「統一ニュース」と「自主時報」に掲載されました

統一ニュース

<https://www.tongilnews.com/news/articleView.html?idxno=212068>

自主時報

<https://www.jajusibo.com/66243>

## ●コミュニティ・ユニオンが1日行動…韓国オプティカル労組がアピール



アピールするペ・テソン教育局長

コミュニティ・ユニオン首都圏ネットワークは11月13日、都内で1日行動を開催。1日行動には日本に遠征闘争中の韓国オプティカル労働組合（韓国民主労総傘下）のメンバーが参加し、韓統連の李俊一（イ・チュニル）事務長が通訳として帯同した。韓国オプティカル労組は親会社である日東電工に対し、不当解雇撤回と雇用継承を要求している。

日東電工東京本社前での抗議活動では、民主労総慶北地域本部亀尾支部のペ・テソン教育局長がアピール。「7月に韓国では国政監査があり、日東電工韓国支社の社長を国会に呼び出し、問題解決を厳しく要求した。わたしたちもこれまで何度も日本の本社を訪問し申し入れたが、日東電工はまったく対応しない」と批判。「この問題が発生してすでに2年が経過している。日東電工がこれまでしてきたひどい仕打ちを、決して許すことはできない。わたしたちはこの闘争に必ず勝利し、すでに屋上で300日以上籠城している仲間と地上で再会する決意だ。これからも連帯して闘っていこう」と強調した。

その後争議団はJ Pホールディングス、学校法人開智学園、J A（全国農業協同組合）中央会を訪問。パワー・ハラスメントや残業手当不払い、勤務中の事故による不当解雇などの問題を解決するよう各企業・法人に申し入れた。

## ●韓統連神奈川本部が情勢学習会を開催…李俊一事務長が報告



報告する李俊一事務長

韓統連神奈川本部は11月17日、川崎市内で情勢学習会を開催した。

文世賢（ムン・セヒョン）代表委員が主催者あいさつ。「米国の大統領選挙や退陣運動の拡大など、情勢が激動している。学習会の中で今後の運動課題を共有していきたい」と語った。

韓統連の李俊一（イ・チュニル）事務長が報告。米国大統領選挙で当選したトランプ次期大統領について「前期において史上初の朝米首脳会談が実現したものの、米国が敵視政策を放棄しなかったため結局交渉は失敗した。過度な期待は禁物だ」と述べ、対話再開の条件として韓米日による合同軍軍事演習の中止や経済制裁の解除など敵視政策の放棄を提示した。尹錫悦（ユン・ソンニョル）政権については「先日の国民向け談話では金建希（キム・ゴニ）夫人を擁護し、国民の怒りは頂点に達した。尹政権は危機脱出のために退陣運動に暴力弾圧を加えているが、退陣への流れを止めることはできない」と語り、「日本の地からも国内の闘う人たちと連帯し、尹政権を退陣させよう」と強調した。

## ●韓統連大阪本部が京都でフィールドワークを開催・・・耳塚、ウトロを訪問



ウトロ平和祈念館で解説を受ける参加者

韓統連大阪本部は11月17日、「バスで行く～秋の京都～ウトロ歴史探訪」を開催した。

大阪市内で集合後、参加者はバスに乗り京都に向け出発。車内では孫啓榮（ソン・ゲヨン）副代表委員から「ウトロに関する

クイズ」が行われ、フィールドワークに向けた雰囲気を盛り上げた。

京都市東山区にある耳塚を訪問。金昌範（キム・チャンボム）代表委員から解説を受け、隣接する「カササギの家」で昼食をとりながら、参加者一人一人から今回のフィールドワークに参加した動機などが語られた。

宇治市にあるウトロ平和祈念館を訪問。館内外の展示物と2021年8月に起きた放火事件の現場を見学。案内員が△戦時中、朝鮮人労働者がウトロ地域に居住した経緯△戦後は厳しい差別を受けながらも、生活拠点を守るために様々な運動を行ってきたことなどを解説し、参加者はウトロ地区の歴史と運動を学んだ。

## 행사예정 行事予定

### 11月

#### 韓統連広島セミナー2024(広島)

日時: 11月30日(土) 午後2時開始 場所: 広島市まちづくり市民交流プラザ 内容: 「尹錫悦政権と朝鮮半島情勢の展望」(講師: 金昌五(キム・チャンオ) 副委員長) 主催: 広島本部 連絡先: 090-3372-0993 (尹)

### 12月

#### 第18回韓統連愛知セミナー(愛知)

日時: 12月8日(日) 午後1時半開場、2時開会 場所: 名古屋市市民会館 内容: 「韓国民主・統一勢力が目指す未来とは」(講師: 康宗憲(カン・ジョンホン) 韓国問題研究所代表) 参加費: 1000円(学生500円) 主催: 愛知本部 連絡先: 090-3930-8815 (金)

#### 情勢講演会(神奈川)

日時: 12月14日(土) 午後5時30分開始 場所: ミューザ川崎 会議室1 内容: 情勢講演(講師: 金昌五(キム・チャンオ) 副委員長) 主催: 神奈川本部 連絡先: 090-1049-4261 (文)

#### 第3回韓統連セミナー2024(大阪)

日時: 12月15日(日) 午後1時半開場、2時開会 場所: いくのパーク 内容: 「激動する朝鮮半島情勢のゆくえ～民衆勝利、平和・統一にむけた課題」(講師: 金昌五(キム・チャンオ) 副委員長) 参加費: 800円(青年学生500円) 主催: 大阪本部 連絡先: 090-3822-5723 (崔)

## 編集後記

尹錫悦大統領の国民向け談話をインターネットで見ましたが、謝罪はうわべだけで中身がなく、あとは身内擁護と自己弁護、逆切れの連続。本当に見るに耐えないものでした。国民の怒りはさらに高まっており、いよいよ退陣の日が迫ってきています(李)